

平成二十一年度

適性検査型入学試験 I 両国型

注 意

1 問題は **1** のみで、**5ページ**にわたつて印刷してあります。

2 試験時間は**四十五分**で、終わりは**午前九時四十五分**です。

3 声を出して読んではいけません。

4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい**。

5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。

6 受験番号と氏名を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

受 験 番 号
氏 名

問題は次のページからです。

1 文章1と文章2を読み、あとの問題に答えなさい。

文章1

このごろ、「世の中の不平等についてどう思うか」とか

「自殺が多いのをどう考えますか」とか、いろんなことに
ついて意見をたずねられると、「そんなことは自分と関係
ないから」といつて、そつぱむいてしまう中学生・高校生
が多いそうです。

わたくしは、この「自分と関係ない」という答えが、小
さな人や、若い人の口から出るたびに、なんともいえない
胸苦しさにおそれます。「世の中のことば、直接自分と
関係なく思われても、全部自分をふくめた問題」です。「無
関係」だということは、根本的に、あり得ないまちがいで
すから。

それに、世の中がたとえゆがんでいても、同じ年ごろの
人たちが、自殺したり苦しんだりしていても、「自分とは
関係ない」といつてしまえる人の心はさびしくて、すつか
り美しいものがなくなつた荒野の風景を連想させます。
「他の不幸は、自分と無関係」、そういう切る人は、そう

いう自分が、人間の不幸を作るものもあることを知らないでしよう。うつかり気をゆるして、よその不幸に同情したら、自分にもわざわいがくるような気がして、反射的に目をふさぐかもしません。

「そんなに、勉強して、ほかのお友だちとはどうなの」と、
わたくしも塾じゅくに熱心な小学校の五年生にたずねました。「人のことは気にしないでいいんだよ。そんなこと気にしていたら何もできないから」と、明快に答えられて、
とつさには次のことがでませんでした。

他の痛みは自分と「関係ない」という心は、逆に自分の
痛みは痛がつて、それを友や、親や、先生や、社会など、
他の責任にしてハつあたりする心と、共存しているような
気がします。同じことでも、解釈かいしゃくによつて、自分の心を励はげますこととできるのに、いつも、悪く悪く解釈して、逆う
らみや、ねたみや、敵意でこわばつてしまふのでは、自分で
自分の人間としての成長をばばんでいるようなもので
す。

「それで、あなたは幸福ですか」。

そういう声が聞こえます。

35

「人のために何かする」という「何か」は、もとより「よいこと」「役に立つこと」「よろこびとなること」をさしています。どんな人の心の中にも、「人をよろこばせて自分もよろこぶ」人間らしいうれしい心があります。これは、「そんな気持、ちつともないよ」なんて、悪ぶつていばつてもだめです。必ず、自分の気づかない心の底に、宝物のよう輝く美しい心が横たわっています。

それこそが人のよろこびをともによろこび、人の痛みをともに痛むことのできる、「人と人と」たがいの宝物でしょう。もし、まだそんな気持を味わったことがないとお思

いなら、ぜひ、自分の中に眠つて、すこし鈍感^{どんかん}なまけ者の宝^ほごころを掘り起こしてください。振りきましてください。
「あ、こんな気持があつたのか」「ちょっとうれしいなあ」。お金もほしい。物もほしい。異性の関心もほしい。親の庇護^{ひご}や、先生の真心もほしい。けれど、そういうものより、何より、もつともつとうれしいのが、この「自分発掘^{はつきくつ}の幸

50

45

(岡部伊都子『心のふしきをみつめて』筑摩書房)

60

福感^{やさ}」、いいかえてみると、「自分の悪意とたたかって、自分を優しく気持のいい存在にきたえてゆくうれしさ」だと思います。

でも、この人間だけが味わえる、本能以上のよろこびは、不斷の努力のあげくに、ふつと感じられるもの。このわずかな瞬間^{しゅんかん}の、^⑦深い感動が味わいたくて、人は、自分を訓練するのでしょうか。

55

生物や社会科の授業で、生徒たちは「人間は集団生活を

営む動物である」と習います。動物の世界で言うなら「群

れ」を作つて生活するということです。群れを作る動物と

言えば、サルや象、イルカなどいろいろな動物が浮かびます。彼らは群れをなしながら、協力し合つて餌を見つけ、

外敵から身を守り、ねぐらを確保しています。個々の役割

が決まつてゐる群れもあるようです。もし、群れの中に、

一匹でも群れ全体の利益を無視し、自分だけの利益を追求

するようなのがいたらどうなるでしょうか？ もはや群れ

は成り立ちません。それどころか、彼らは群れで生活する

からこそ生き延びてこられた動物たちです。この先、「絶滅」
ということも十分にあり得ることでしよう。

人間の生活も同様です。それはほかの動物以上です。役割を分担し、お互いができないことを補い合うことでいまの生活が成り立つています。昔ながらの言い方をすれば、「お互いさま」ということになります。労働と社会、そして人のありようを考えるとき、この「お互いさま」の感覚

を持つことが、これからはますます重要になつてくると、僕は思っています。

〈中略〉

「お互いさま」という言葉は、別の見方をすれば、「自立」を意味する言葉になります。「お互いさま」というのは、自分でやることは自分でやり、できない部分は協力して助け合おうという姿勢で人と付き合う態度のことです。これはまさに「自立して生きる」こととまったく同じです。

この「お互いさま」の視点で現代社会の「労働」問題を見直してみます。教科書的に言うと、「労働」は有償の「職業労働」と無償の「家事労働」に分類されます。そこに別項目として「ボランティア労働」が付け加えられることもあります。でも、「群れで生活しているわれわれを支えるために営まれる行為」＝「労働」と考えれば、職業労働にしろ家事労働にしろボランティアにしろ、どれも大切な労働であつて、そこにはなんの優劣もないことがわかります。「みんなで社会を支え合つている」現実があるだけです。

むしろこれから問題になつてくるのは、働く意欲も、また社会へ貢献こうけんしたい気持ちもあるのに、それを活用する場を、経済情勢によつて社会の側で用意できないことでしょう。群れが、群れとしての能力を最大限に生かすためには、社会を構成するメンバー一人ひとりが、持てる力を最大限に發揮できる状況や場があることが大切なのです。

労働を通じて、社会にしつかりと参加・貢献できている

という感覚が持てれば、群れを作る動物であるわれわれは

安心して生きていけます。社会の平和や安定にもずいぶん

プラスとなります。現実社会を見ると「孤立感こりつかん」＝「群れ

からはみ出た感」がもとになつて起きているのではないか

と思える犯罪が増えてきているように思いませんか？

つまり、「お互いさま」という関係が成り立つのは、各

自分が「群れに参加している」「参加できている」ときであ

り、「自立」もまた社会参加という文脈の中でとらえる必

要があるということなのです。現代社会では、「労働」を

取り巻く問題が山積していますが、その多くは「労働の孤

立化」や「労働は個人的な営為だ」えいweiという現代的な感覚か

ら生じて いるような気がしてなりません。かといって簡単な解決方法がすぐに見つかるとも思えませんが、僕たち一人ひとりが働くことの意味をもう一度とらえなおすことで、①周りの人との関係性を少しずつでも「お互いさま」感覚に近づけてゆくことで、時間はかかるても少しずつ働きやすい労働環境かんきょう、住みやすい生活環境に変えていけると信じています。

（南野忠晴ただばる『正しいパンツのたたみ方—新しい家庭科勉強法』

岩波書店）

〔問題1〕 深い感動が味わいたくて、人は、自分を訓練

④

する、について、次の問いに答えなさい。

(1) 「深い感動」とはどのようなものですか。文章1

の中の言葉を使って書きなさい。

(2) 「自分を訓練する」とは具体的にどうすることを

指していますか。文章1の中の言葉を使って書きなさい。

〔問題2〕 周りの人との関係性を少しずつでも「お互いさま」感覺に近づけてゆく、とあります。が、これはどうしていくことだと筆者は述べています。

か。

①

【文章2】の中の言葉を使って書きなさい。

【きまり】

○題名は書きません。

○最初の行から書き始めます。

○各段落の最初の字は一字下げて書きます。

○行を加えるのは、段落を加えるときだけとします。
会話を入れる場合は行を加えてはいけません。

○「、や。や。」などもそれぞれ字数に数えます。

これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の文字と同じです。目に書きます。(ます)の下に書いてもかまいません。

○「。」が続く場合には、同じです。目に書いてもかまいません。この場合、「。」で一字と数えます。

○段落を加えたときの残りのますは、字数として数えます。

条件 次の三段落構成にすること。

①第一段落で、【文章1】と【文章2】、それぞれの内容にふれること。

②第二段落には、「①」をふまえ、大切にしていること、または大切にしたいと思っていることを書くこと。

③第三段落には、「②」をふまえ、人とどのように関わっていくのかを具体的に書くこと。

以下白紙です。